

ソラマメの栽培法

2011/10/10

特性

ソラマメはあまり手がかからず冬の菜園利用にはもってこいの野菜で、品種としては一寸蚕豆や早生蚕豆、サメキ蚕豆等がある。エンドウ同様小苗で冬越しをすることが大切ある。また酸性土壌には、不向きで石灰や堆肥を十分に施すこともポイントである。

タネまき

10月末から11月にうね作りをして株間20~40cmに2~3粒ずつおはぐろを下か横に向けてまき、タネの2倍程度の覆土をする。一寸系のものは水分の吸収に時間がかかり発芽しにくいことがあるので半日程吸水させてまくとよい。ポット育苗をしてもよいが根が弱いので根いたみをさせないよう注意。

施肥

エンドウ同様に窒素は少なくリン酸を主体に施すことで草木灰等(カリ分)は多く施した方がよい。

手入れ

春先から生育が急速に進み分枝が多くなる。着莢の枝は複葉が20~25枚のもので、それより少ない分枝はとり除き光線透過をよくすること。整枝後は5~

6cmの厚さに土寄せし、倒伏防止をする。

収穫

5~6月収穫で、開花後30~40日、さやを調べてみて実の太ったものから収穫する。(仁徳一寸など最近の品種は莢が下を向きかけた頃、やや若どりがよい。)

